

本書の読み方

◎シナリオ形式で具体的に予測

日本経済新聞社の第一線記者が、2010年の動向を複数のシナリオを立てて予測しています。シナリオの先頭にアイコンをつけ、実現可能性が一目でわかるようになっています。



実現する可能性がもっとも高いシナリオです。



本命ほどではないにせよ、十分に起こりうるシナリオです。



可能性はかなり低いものの、ないとは言い切れないシナリオです。

◎体系的な7章構成

本書は、67のトピックスについて、「日本経済大予測」「金融・マネー大予測」「経営・企業大予測」「産業大予測」「科学技術大予測」「政治・制度・社会大予測」「国際情勢大予測」の7章に分けて大胆に先読みします。

第1章 日本経済大予測

景気、株式相場など主にマクロ分野の経済の予測を行います。

第2章 金融・マネー大予測

財政や税制、国際商品の動向などお金の動きを展望します。

第3章 経営・企業大予測

企業再編や人事・雇用の傾向など日本企業の大きな潮流について予測します。

第4章 産業大予測

自動車、携帯電話からエンタビジネスまで個別の産業・業界の行方を予測します。

第5章 科学技術大予測

再生医療や太陽電池など、最先端技術の動向についてふれています。

第6章 政治・制度・社会大予測

外交や憲法改正など政治の世界と、新型インフルエンザや農業政策など制度・社会全般の動きを探ります。

第7章 国際情勢大予測

各国・地域の動向など、国際情勢の先行きを見通します。

各項目は4ページで完結していますので、興味のあるテーマから読むことができます。